

Patlytics知財AIプラットフォーム包括研究レポート

Gemini 3.6 Flash

エグゼクティブ・サマリー

知的財産 (IP) 管理および特許実務の分野において、人工知能 (AI) の活用は従来のキーワード検索や単純な文書ドラフト補助の域を超え、特許の全ライフサイクルを統合管理するAIネイティブ・プラットフォームへと急速に進化している¹。その最前線に位置するのが、米国サンフランシスコに本社を置くPatlytics, Inc. (パトリティクス) である⁴。2024年の設立以降、ベンチャーキャピタリスト出身のポール・リー (Paul Lee) 最高経営責任者 (CEO) と、スケーラブルな技術インフラ構築に定評のあるアーサー・ジェン (Arthur Jen) 最高技術責任者 (CTO) のもとで急速な成長を遂げている⁴。

Patlyticsは、発明提案の評価から出願書類の自動作成、拒絶理由通知書 (Office Action) の解析、侵害検知、無効資料調査、自由実施調査 (FTO)、標準必須特許 (SEP) マッピング、さらにはポートフォリオの整理・剪定 (Pruning) に至るまで、特許業務の全工程を単一の統合環境でカバーするシステムを提供している¹。米国の頂点に位置する法律事務所 (Am Law 100の40%以上) や、キャノン、旭化成、リビアン (Rivian)、ゼロックス (Xerox) といった世界的イノベーション企業に導入されており、作業時間を最大80~90%削減し、クレームチャート作成コストを1件あたり3万ドル以上削減するなど、絶大な投資対効果 (ROI) を実証している³。

本レポートでは、Patlyticsの企業概要、資金調達推移、製品アーキテクチャおよび機能詳細、日本市場・JPOを含むグローバル対応能力、競合比較、そして将来的な市場へのインパクトについて多角的な分析を行う。

企業概要と資金調達の軌跡

創業者背景と設立経緯

Patlyticsは、知的財産管理における「ツールの断片化」と「重厚な手作業」という長年の業界的課題を解き明かすために設立された⁵。CEOのポール・リーは、10年以上にわたるベンチャーキャピタルでの経験を通じ、多くの知財主導型企业やスタートアップが、膨大な特許ドキュメントと限られた専門家人員とのギャップに苦しんでいる実態を目撃した⁶。一方、CTOのアーサー・ジェンは大規模なデータ処理とAIインフラの構築経験を有していた⁵。

従来の知財業務では、検索、出願作成、侵害分析、訴訟準備の各段階で異なるポイントソリューションが使用されており、データ移行やコンテキストの引継ぎにおいて多大な摩擦とエラーが発生していた²。両者は生成AIの飛躍的進化に着目し、特許ライフサイクル全体を一貫したコンテキストで接続するプラットフォームの構築に着手した²。

資金調達と投資家ネットワーク

Patlyticsは、設立からわずか2年余りで累計約6,500万ドル (一部データベース指標では約7,960万ドル) の資金調達を完了しており、知財AIスタートアップとして最も潤沢な資本基盤を備えた企業の一

つとなっている³。GoogleのAI特化型ファンドであるGradient Venturesを皮切りに、トップクラスのベンチャーキャピタルが多数参画している⁴。

調達時期	ラウンド	調達額	主導投資家 (Lead Investors)	参加投資家・エンジェル投資家
2024年4月	シード (Seed)	450万ドル	Gradient Ventures	8VC, Liquid 2 Ventures, Tribe Capital, Amit Agarwal (Datadog社長) 等 ⁸
2025年2月	シリーズA	1,400万ドル	Next47	Gradient Ventures, 8VC, Abstract Ventures, Alumni Ventures等 ⁵
2026年4月	シリーズB	4,000万ドル	SignalFire	Next47, Myriad Venture Partners, Relativity, Antiportfolio Ventures等 ³

この異例とも言える急速な資本形成は、知財分野における高度なLLM(大規模言語モデル)応用の市場規模と、Patlyticsが示したプロダクト・マーケット・フィットの高さを示している⁵。顧客基盤は半年間で18倍に急成長しており、組織規模の拡大とグローバル展開を加速させている³。

アーキテクチャと統合プラットフォーム機能

特許ライフサイクルの統合アプローチ

Patlyticsの技術的本質は、個別の作業ごとに完結する単機能ツールではなく、特許の創出から権利化、活用、権利行使に至る一連のプロセスを連携させる単一データプラットフォーム構造にある¹。発明提案から出願書を作成し、特許庁からの拒絶理由に対応した上で、権利化後は他社製品の侵害検知や自社ポートフォリオの剪定 (Pruning) に移行し、有事の際には無効資料調査や訴訟防御へシームレスに展開する連続的ワークフローを実現している¹。

ある工程で生成されたクレーム解釈 (Claim Construction) や技術分類は、後続の侵害調査や無効化分析、さらにはポートフォリオの評価モジュールへと自動的に引き継がれ、人間による重複作業や

認識の齟齬を極限まで排除する仕組みとなっている¹。

主要モジュールの機能分析

Patlyticsは、特許実務者の高度なニーズに応えるため、以下の専門モジュール群を相互接続して提供している¹。

発明提案書 (IDF) 監査および出願ドラフト作成モジュールでは、生の発明開示テキスト、技術図面、PowerPointスライド等の多様な資料を自動解析し、監査可能な構造化データを生成する¹²。従属関係を含むクレームツリーを最適化し、明細書の詳細な説明や実施形態のテキストを短時間で出力する⁵。特許庁の書式規定 (段落番号、見出し等) に完全に準拠したドラフトを生成するため、ゼロからの作成に比べて出願作成時間を大幅に短縮する³。

侵害検知 (Infringement Detection) およびクレームチャート自動生成モジュールは、公開Webデータ、製品データシート、FCC届出文書、分解レポートなどをAIクローラーが自動的に探索し、特許クレームの構成要件と対象製品の技術仕様とのマッピングを行う¹。構成要件ごとに一致強度 (Read Strength) を判定し、画像や引用文を裏付け証拠 (Evidence of Use: EoU) としてピンポイントで紐づけたクレームチャート (Microsoft Word/Excel形式) を自動生成する¹。

無効資料調査 (Invalidity Analysis) モジュールは、7,000万件以上の特許文献および2億5,000万件以上の非特許文献 (NPL) を対象に自然言語処理を用いた意味検索 (Semantic Search) を実行する¹²。単なるキーワード一致にとどまらず、発明の技術的思想を理解した上で関連文献を抽出する¹²。米国特許法第102条 (新規性) だけでなく、第103条 (進歩性/容易考え出し性) に基づく複数文献の組み合わせと、それらを組み合わせる動機付け (Motivation to Combine) を論理的に自動構築する¹。拒絶理由通知書解析 (Office Action Analysis) モジュールでは、特許庁から届いた拒絶理由通知書をアップロードすると、審査官の拒絶論点、引例特許、不服対象クレームを自動的に抽出・構造化する¹²。引用された先行技術を自社データベースから即座に取得し、反論ロジックの補答案やクレーム補正案を対話型AIエージェントとともに作成することが可能である¹²。

モジュール名	主な入力データ	主な出力・機能	業務上の主要成果
出願ドラフト作成	発明開示書、メモ、図面、PPT	クレームツリー、詳細な説明、規定準拠ドラフト	作成時間を最大20～90%削減 ⁶
侵害検知・EoU	特許番号、製品仕様書、Webデータ	エビデンス付きクレームチャート、一致度評価	調査期間を数ヶ月から数時間に短縮 ¹
無効資料調査	判定対象特許、優先日	構成要件対比表、§103組合せ論理、§112検証	7,000万特許+2.5億NPLからの即時抽出 ¹²
拒絶理由解析	拒絶理由通知書、補	拒絶論点サマリー、	初動トリアージおよ

	正案	反論ロジック、補正ドラフト	び反論作成の劇的加速 ¹²
SEP / FTO	規格書、新製品仕様書	必須性チャート、法域別侵害リスクマップ	高額な外部法律事務所依存度の低減 ¹

ガバナンス、セキュリティ、反ハルシネーション機構

知的財産領域において、AIによる「ハルシネーション（虚偽情報の生成）」や「未公開技術情報の漏洩」は致命的なリスクとなる⁶。Patlyticsはエンタープライズ領域での要求に応えるため、厳格な安全基準を適用している¹。

システム全体のセキュリティ基盤として、SOC 2 Type 2、ISO 27001、ISO 42001の各国際認証を取得済みである¹²。送信中および保管中のデータはAES-256規格等で厳重に暗号化される¹。顧客データは完全に隔離され、AIモデルの再学習や他社への流用には一切使用されないことが保証されている¹²。

さらに、すべての解析結果には原文へのピンポイント引用（ページ・段落レベル）と色分けされた信頼度指標（Confidence Indicators）が付与され、弁理士や弁護士が根拠を即座にファクトチェックできる透明性の高い構造を実現している¹²。

グローバル展開と日本市場・JPO対応能力

多法域データ基盤と多言語処理

Patlyticsは米国特許（USPTO）のみならず、欧州（EPO）、日本（JPO）、韓国（KIPO）、台湾（TIPO）、中国（CNIPA）、WIPO（PCT）を含む主要な国際法域の特許データベースとネイティブに接続している¹²。

従来の翻訳ツールを用いた調査では、機械翻訳によるクレーム解釈の微妙なニュアンスの欠損が致命的な判断ミスに繋がることが懸念されていた¹²。Patlyticsは、異言語の特許ドキュメントに対して原文と英語等の対訳を並列表示（Side-by-Side）する機能を備え、外国特許であっても段落・行レベルでのピンポイント引用ナビゲーションを実現している¹²。これにより、欧州特許庁の分割出願に関するEPC第76条の審査基準や、日本特許庁（JPO）の拒絶理由に対しても、各国の法理ロジックに基づいた正確な分析が可能である¹²。

日本企業の導入実証：旭化成（Asahi Kasei）の事例

日本の大手素材・化学メーカーである旭化成株式会社（Asahi Kasei）は、知的財産部における侵害調査業務の高度化を目指し、Patlyticsをいち早く導入した¹³。

同社の知財部（戦略ライセンスグループ等）では、化学・機械・電子など多岐にわたる技術分野において他社製品の侵害疑義（Evidence of Use）を調査していたが、製品仕様の探索やクレーム対比表の作成には数週間から数ヶ月の多大な時間と外部コストを要していた¹³。

この課題に対し、旭化成はPatlyticsの柔軟なアーキテクチャを活用し、AIが公開Webからクロールした情報に加え、自社で独自に入手した他社製品の解析データや内部知見をプラットフォームに追加入力する運用を構築した¹³。公開情報と自社保有情報を融合させることで、AIが多角的なアプローチ

で侵害疑義製品へ到達するハイブリッド調査ルートを確立した¹³。

この取組により、従来数日から数ヶ月を要していた1件あたりの侵害調査プロセスが「わずか数時間」に短縮された¹。さらに、侵害検知レポート1件の作成につき、最低でも1,000ドル～5,000ドル(約15万～75万円以上)の直接的な人件費・調査委託費の削減を達成した¹。単純な検索や文献照合作業から解放されたことで、知財専門家がライセンス交渉や権利行使、法務戦略などの高付加価値業務に集中できる体制が整備された¹³。

旭化成以外にも、キヤノン(Canon)、パナソニックIPコーポレーション・オブ・アメリカ、日産自動車などのグローバル企業がPatlyticsを採用しており、日本企業のクロスボーダー特許戦略における重要ツールとして評価を高めている¹。

競合環境と市場ポジショニング

比較分析

知財Tech市場には、従来型の大手知的財産データベースプロバイダーや、新興の出願特化型AIツールが存在する⁴。Patlyticsは、これらの競合に対して独自のポジショニングを築いている²。

比較軸	伝統的知財DB(PatSnap, LexisNexis等)	出願特化型AI(Solve Intelligence 等)	Patlytics
起点・コア能力	巨大データベースと 文献検索 ⁴	出願ドラフト作成の 効率化 ¹¹	特許インテリジェンス ＋全ライフサイクル ²
ワークフロー範囲	検索・分析(作成や 訴訟は限定的)	出願・拒絶理由対応 中心 ¹¹	出願～拒絶理由～ 侵害検知～訴訟～ Pruning ¹
AIアーキテクチャ	検索アルゴリズム中 心＋後付けAI	生成LLMメイン	根拠引用型AI＋マル チモジュール統合 ¹
主要ターゲット	R&D研究者、一般知 財部員	弁理士(特許出願実 務者) ¹¹	Am Law 100法律事 務所、法務責任者、 大手知財部 ²
クレームチャート	手動エクスポート・簡 易生成	限定的	証拠引用付き自動 生成・高度カスタマイ ズ ¹

Solve Intelligenceなどのライバルが出願ドラフト作成から市場に参入したのに対し、Patlyticsは難易度と市場価値が最も高い知財インテリジェンス・訴訟防御・侵害分析からスタートし、そこから出願作成モジュールへと拡張した¹¹。このアプローチにより、高額な単価を支払うAm Law 100の著名法律事務所(Quinn Emanuel, Latham & Watkins, Foley & Lardner, Susman Godfrey等)の信頼を早期

に獲得することに成功した²。

Legal Engineer体制による実務適応

Patlyticsの強力な差別化要因は、組織構造における「Legal Engineer（リーガル・エンジニア）」の配置にも存在する¹。同社は元・米国特許商標庁（USPTO）審査官や、大手法律事務所の特許弁護士・IPリティゲーター（訴訟弁護士）をリーガル・エンジニアとして多数雇用している¹。

リーガル・エンジニアは顧客である弁護士や企業知財部と対等な視点で対話し、法律実務に則したワークフローの調整、AI出力の質的評価（QC/QA）、プロダクト開発陣への直接的なフィードバックを担当する⁹。単なるソフトウェア販売にとどまらず、「実務感覚に完全に符合した法理的アウトプット」を補償する体制が、強固な参入障壁を生み出している⁹。

業界へのインパクトと将来展望

定量効果とROI

Patlyticsの導入企業から報告されている定量的成果は、従来のLegalTechツールと比較しても際立っている³。全体的なプロジェクト処理時間の最大80%～90%短縮が達成されているほか、従来弁護士報酬として1件あたり3万ドル以上を要していた訴訟用・ライセンス用クレームチャートの作成費用が数分の一に圧縮されている³。出願書類作成においても1件あたり最大15時間の節約が確認されており、導入企業はきわめて短期間でライセンス費用を上回る実質的なコスト削減を達成している²。

製品開発ロードマップ

シリーズBで獲得した4,000万ドルの資本を活用し、Patlyticsは主に3つの成長戦略を推し進めている³。

第一に、外部法律事務所と企業知財部が同一画面上でリアルタイムにファイルを共有・推敲し、コメントーションや変更履歴を追跡できる「AIネイティブ・コラボレーション・スイート」の開発である³。第二に、ドラフト作成や事前リサーチ、ポートフォリオの一次仕分け（トリアージ）を自律的に遂行する「ドメイン特化型AIエージェント」の実装である³。第三に、アミノ酸配列、遺伝子配列、複雑な化学構造式（Markush構造等）の解析および出願作成に対応する「Chem-Bio（化学・バイオ）」領域への機能拡張である³。

これらを通じて、既存のIT・エレクトロニクス分野から製薬・バイオ・材料化学領域に至るまで、グローバルな知財実務のインフラストラクチャーとしての地位を固めつつある³。

結論

Patlyticsは、単なる文章作成補助や検索の域を超え、知的財産の創出から権利行使、ポートフォリオ最適化に至る全ライフサイクルを統合管理するAIネイティブ・知財プラットフォームとしての地位を確立した¹。

創業から短期間で達成された大規模な資金調達、Am Law 100法律事務所の40%以上での採用、そして旭化成をはじめとするグローバル企業での劇的な調査時間の短縮とコスト削減実績は、同社の製品設計が極めて高い市場適合性と実用性を備えていることを証明している³。

無形資産である知的財産が企業価値の核心を占める現代において、Patlyticsのような高度なAIプラットフォームの活用は、単なる業務の効率化にとどまらず、企業のグローバル知財戦略における競

争優位性を左右する重要な要素となっている²。

引用文献

1. Patlytics • Premier AI-Powered Patent Intelligence, <https://www.patlytics.ai/>
2. Patlytics Raises \$40M as AI Drives a Simultaneous Surge in Patent Filings and IP Litigation, <https://www.alleywatch.com/2026/04/patlytics-ai-patent-platform-ip-lifecycle-management-legal-tech-paul-lee/>
3. Patlytics: \$40 Million Raised For AI Patent Lifecycle Platform Expansion - Pulse 2.0, <https://pulse2.com/patlytics-40-million-raised-for-ai-patent-lifecycle-platform-expansion/>
4. Patlytics - 2026 Company Profile, Team, Funding & Competitors - Tracxn, https://tracxn.com/d/companies/patlytics/_htScA-1SQwZGPa1AagLzxHebkQjwOC4ATkPBI6XQCJO
5. Patlytics: Funding, Team & Investors | Startup Intros, <https://startupintros.com/orgs/patlytics>
6. The Patent Platform Built for What the Work Actually Demands - Patlytics, <https://www.patlytics.ai/news/patlytics-raises-40-million-series-b>
7. Patlytics Raises \$40 Million Series B to Expand the AI Platform Purpose-Built for IP Work, <https://www.businesswire.com/news/home/20260408770722/en/Patlytics-Raises-%2440-Million-Series-B-to-Expand-the-AI-Platform-Purpose-Built-for-IP-Work>
8. Announcing our \$4.5M seed round led by Gradient - Patlytics, <https://www.patlytics.ai/news/announcing-our-4-5m-seed-round-led-by-gradient>
9. Legal Engineer @ Patlytics | SignalFire Job Board, <https://jobs.signalfire.com/companies/patlytics-2/jobs/86602420-legal-engineer>
10. Patlytics Secures \$14 Million Series A Funding Led by Next47 - Business Wire, <https://www.businesswire.com/news/home/20250224053849/en/Patlytics-Secures-%2414-Million-Series-A-Funding-Led-by-Next47>
11. Solve Intelligence vs Patlytics (2026): Which AI patent drafting tool is better? - Patenttext, <https://patenttext.com/blog/solve-intelligence-vs-patlytics>
12. How Patlytics Powers Global Patent Workflows Across Europe, Asia, and the United States, <https://www.patlytics.ai/blog/patlytics-global-patent-europe-asia-and-the-united-states>
13. Asahi Kasei + Patlytics | Customer Story, <https://www.patlytics.ai/customer-stories/asahi-kasei>
14. Patlytics Attending the 44th Annual J.P. Morgan Healthcare Conference, <https://www.patlytics.ai/news/patlytics-attending-jp-morgan-healthcare-conference-2026>